生徒指導部通心（信）第 11 号（2 学期スタート号）（2024．9．2）

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「**県高にはカブトムシがいる！実は狸もいる！**」って知ってた？と「〇〇〇さま」～

県立伊丹高校では夏になると敷地内のクヌギの木にカブトムシが集まります。知っていましたか？どこか知ってますか？

そして・・・**実は・・・・・・狸もいます。**

右の写真は・・・・昨年の・・・・・県伊祭の・・・・・初日の朝→

こんな阪神の真ん中でカブトムシや狸が普通に見られるなんて驚きです。

さて、今回はこの通心（信）でよく紹介させてもらっている、ひすい こたろう　さんのご家族のある夏の日の出来事です。

「とうちゃん！とうちゃん！木にいたんだよ。カブトムシが！！！」

そう興奮してつかまえてきたカブトムシを、息子は大事に玄関で飼っていました

しかし、ある日のこと・・・僕が帰った時、玄関で息子がちょうどカブトムシに餌をあげていていました。

「おおお。カブトムシ見せて」

と、カゴから取り出して、僕が角のところをもちあげようとした瞬間、

パタパタパタ・・・・・・・

突然、カブトムシは空高く舞い上がり、そのまま夜の闇に消えていってしまったのです。

「・・・・・・・・・・」

声をあげることもできず、ただ呆然とする息子。僕は、息子が大事にしていたカブトムシを逃がしてしまったのです。・・・しかし、息子は僕を全く責めず・・・ただこう一言。

「とうちゃん、カブトムシって飛ぶんだね。初めて見たよ。」

でも、そう言う息子の肩はがっくり落ちていて、僕は切なかった。それを知ったカミさんが一言。

「気持ちよかっただろなぁ～。カゴから抜け出して、飛ぶとき、カブトムシ、気持ちよかっただろうなぁ～。」

息子の大事にしていたカブトムシを逃がしてしまい、自分を責める僕。そんな僕を気遣い、まったく僕を責めなかった息子。逆にカブトムシの気持ちに思いをはせて興奮している妻。その全体図を見て笑っている娘。

同じ出来事でも織りなされるこころの動きはそれぞれです。僕の痛恨のエラーが妻には、カブトムシの逆転満塁ホームランに見えている。僕は自分を責めていて、息子は、そんな僕を思いやってくれて、妻は、カブトムシの起死回生の逆転劇に胸躍らせている。

悲しみと思いやりはきっと双子の兄弟。

悲しみの生まれるところ、同時にその背後にはそっと**思いやり**が生まれているんです。

「ものの見方検定」　ひすい　こたろう　（祥伝社）

コンサルタントの大久保寛司さんは・・・「『人』という字は右側の棒が左側の棒を支えているように見えます。じゃあ、よりそいかかっている左側の棒を取り除くとどうなるでしょうか？支えていたはずの右の棒まで倒れてしまいます。**もたれかかっているように見えた相手が、実は自分を支えてくれていたわけです。**」とおっしゃっています。

自分が支えていると思った相手から、実は支えられている。これこそが人生の真実なのかもしれません。だから、日本人はよくこう言ったのです。その言葉とは・・・**「お・か・げ・さ・ま」。**・・・「あなたのおかげで・・・」「〇〇のおかげで・・・」というものの見方、考え方、身に付けたいものですね。

さぁ２学期のスタートです。